

平成26年度5月分 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成26年4月28日（月）午後1時30分～2時10分

場所 市役所2階第1委員会室

出席 市政記者クラブ9社

会見内容

1. 話題提供（6項目）

1. 姉妹都市ホルムスク市長訪問団の来釧について

- ロシア連邦サハリン州ホルムスク市とは昭和50年に姉妹都市の提携を行い、来年度の平成27年度で40周年を迎えます。
- 昨年度サハリン州ユジノサハリンスク市で開催された「北海道・サハリン州市民交流会議」に市職員が参加した折、ホルムスク市を訪問し、ナザレンコ市長に面談した際、ナザレンコ市長から平成26年度に釧路市を訪問したいとの申し出がありました。
- 来釧メンバーはホルムスク市長、ホルムスク市議会議長、サハリン海運汽船社長、ホルムスク市文化管理局長の4人です。
- 日程は、来月5月28日に釧路市に到着し、市長表敬、歓迎パーティー、市内視察を経て5月31日に離釧する予定となっています。
- 来釧時には、ホルムスク市内にあるドルーヅバ幼稚園と姉妹園提携しているわかさ保育園への訪問、ロシアの友好団体である釧路市日ロ親善協会（会長：金井関一）との交流なども予定しています。
- 今回のホルムスク市からの訪問は、前回来釧の平成18（2006）年の「北海道・サハリン「体験・友情の船」」で青少年3人・引率1名以来です。
- なお、釧路市長が訪問したのは、平成17（2005）年に伊東市長（当時）ほか13名が姉妹都市提携30周年を記念して訪問したのが最後となっています。

2. クルーズ客船寄港に伴う歓迎体制について

- 去る4月19日には、今年度の初便としてオランダ船籍のフォーレンダム号が寄港しました。当日は約1,300名の乗客の皆さん、約600名の乗員の皆さんが出港までの時間、フィッシャーマンズワーフMOOをはじめ、幣舞橋、和商

市場など、市内を散策して過ごしていただきました。

- フォーレンダム号の乗客の大多数が外国人のお客様であったため、釧路の国際交流ボランティアの会の方々が当日の案内やパンフレット、マップ（日本語・英語版）の配布をするとともに、「国際交流サロン」を開設し、折り紙のコーナーや着物着付け体験などを行いました。
- 釧路市では、クルーズ客船歓迎体制を整えるため、今年3月に観光関係者や商業関係者向けの説明会を行い、入港予定の各客船についての情報を共有し、それぞれにあったおもてなし方法を検討しました。その結果、18店舗の店主の方より、「街なかマップ」への掲載などの協力をいただき、乗船客への特典を用意していただきました。また、客船寄港日にあわせ、定休日の振り替え、開店時間の繰り上げのご協力をいただいた店舗もあります。さらに、今後、入港に際し、岸壁での出店協力や、釧路国際交流ボランティアの会の皆さん、釧路観光ガイドの会の皆さんの対応をお願いしております。
- さらに今年度、市民の皆さんはもとより、釧路市を訪れる観光客の皆さんが、釧路市の観光情報を簡単に見ることができるような、アプリケーションの開発が進められており、すでに一部が提供されています。クルーズ旅客船の乗客の皆さんにもぜひ、このアプリを活用していただきたいと思います。

3. 平成26年度ビジット・ジャパン（VJ）メディア招へい事業について

- 国は、訪日外国人旅行者数を将来的に3,000万人とすることを目標とした「訪日外国人3,000万人プログラム」を設定し、ビジット・ジャパン（VJ）事業を展開しています。
- このたび、ビジット・ジャパン事業のひとつである、「VJ地方連携事業」に、本市が参画する「釧路湿原・阿寒・摩周観光圏協議会」として、欧米市場からの外国人旅行者の誘致を主な目的としたメディア招へい事業に初めて取り組むこととしました。VJ地方連携事業は、国と地方自治体及び観光関係団体等が、広域に連携して取り組む訪日プロモーション事業で、今回は、国土交通省北海道運輸局をはじめ、北海道観光振興機構や道内他自治体等と連携します。
- 今回、招へいするのは、80カ国に読者850万人といわれる「ナショナル・ジオグラフィック」誌と、英語圏では最も利用されている旅行ガイドブック「ロンリー・プラネット」の2誌です。事業を通じて、高い情報発信力や影響力を活かしてWEBサイトへの掲載等により、欧米旅行市場における当地域の認知度向上などを図っていきます。

- ・日程：5月3日（土）～4日（日）
- ・招へい相手：「ナショナル・ジオグラフィック」誌 写真家 クリス・レイニア氏
 ※レイニア氏は、アメリカ・フォト・マガジンにより、現在、米国で一番影響力のある写真家 100 人の一人に選ばれ、特に存亡の危機にある少数民族の言語の保存に力を注ぎ、ナショナル・ジオグラフィックの少数民族言語プロジェクトの責任者

- ・日程：6月15日（日）～17日（火）
- ・招へい相手：「ロンリー・プラネット」誌 ライター クレイグ・マクラクラン氏
 ※マクラクラン氏は、同誌最新版（2013年9月発行第13版）で北海道部分を執筆され、冒頭に「Why go（何故北海道に行くべきか）」として、アイヌと北海道の自然をその理由に挙げられるなど、欧米系旅行者の嗜好をよく代弁し、その興味にダイレクトに訴えている

【取材内容等】先住民族「アイヌ民族」とその文化に焦点を当てたテーマとし、阿寒湖アイヌコタン、屈斜路コタンなどで丸木舟での船上ムックリ演奏、現代アートなど、当地ならではの被写体を取材いただく予定。

4. 阿寒国立公園指定80周年記念事業について

- 本年は、「阿寒国立公園」が昭和9年に国立公園に指定され、80周年。阿寒国立公園は、言うまでもなく国内でも有数の大きさをもつ国立公園であり、その壮大な自然環境や地域独自の文化などは、国内はもとより世界中から注目されています。
- この記念すべき年を祝し、当市をはじめとする弟子屈町、津別町、美幌町、足寄町の関係5自治体とその観光協会が構成する「阿寒国立公園広域観光協議会」が連携し、記念行事の開催や、あらたな魅力発信に取り組みます。
- 記念行事として、5月26日（月）午後2時より、阿寒湖アイヌシアターイコロにて「阿寒国立公園指定80周年記念シンポジウム」を環境省と同協議会の共催により開催します。
- 基調講演は、前釧路自然環境事務所長の環境省自然環境局長の星野一昭（ほしかずあき）氏による「阿寒国立公園の利用向上と地域再生」をテーマとしたものです。また、「質の高い国立公園サービスの提供による地域の発展に向けて」をテーマとし、有識者4名をパネラーに迎え、80周年を機に、新たに取り組みを開始する本協議会による「阿寒国立公園おもてなしプログラム」への助言や提言をいただく予定となっています。
- この「阿寒国立公園おもてなしプログラム」は、80周年を機に「阿寒国立公

園広域観光協議会」を構成する関係自治体等との連携により、豊かな自然資源や食などを活かした体験型の新たな滞在プログラムの企画開発に取り組むものです。

5. 市職員の町内会加入状況調査結果について

- 市職員(全職員を対象/2月実施)の町内会加入率調査の結果、加入率は73.78%となり、前年同期の74.41%から0.63ポイント減少しました。
- 町内会活動は市政推進の原動力であり、職員の積極的な参加を期待しているところですが、残念ながら前年比で加入率が減少するという結果になりました。引き続き、定期的な調査を通じて自覚を促すとともに、新採用職員研修をはじめ各種職員研修など機会あるごとに加入を勧めていきたいと考えています。
- また、今年度は市民環境部と連携を図りながら、未加入者への加入促進に努力していく予定です。

6. 大型連休におけるイベントについて

【阿寒湖温泉】

○「阿寒・湖水開き2014」 4月29日(火・祝日)

場所:阿寒観光汽船本社前

11:30～ 遊覧船無料優待乗船券抽選会、阿寒湖名産魚試食会など

12:00～ オープニング・セレモニー

13:00～ 遊覧船出航

【動物園】

○「春の動物園まつり」 4月29日(火・祝日)～5月6日(火・振)

・メンヨウの毛刈り公開(こども動物園) 4/29(火) 14:00～

・コミミズクのフライト特別ガイド(定員50人) 5/5(日)・6(月) 14:00～

・アルパカのルビーの散歩 毎日 13:15～レッサーパンダ舎前出発

○アムールトラ「ココア」 5月18日(日) 誕生会を実施

2. 質疑要旨

(質問)

- ・ 「市職員の町内会加入状況調査結果について」は、昨年も同じような報告があったと思いますが、背景として世代別・役職別等、どのような要因で伸び悩んでいるのか原因を分析する予定ですか。そのために、今後、どのような対策をする予定な

のか教えてください。

(市長)

- ・ 役職などは関係なく、町内会に加入するのは公の職業についている者にとって、ごくごく当たり前のことだと考えています。町内会は、もともと公務に近い活動、社会にとって当たり前の奉仕活動を任意で行っていただいています。自分のできる範囲で、自分の時間を使って、地域のコミュニティに参加するということは社会にとって当たり前のことだということをしっかりと内部でも伝えていきたいと思えます。
- ・ やり方としては、職員研修の場やその他のさまざまな方法を考えて、対応していきます。外で話をするときに、市役所内部がしっかりできていないというわけにはいかないと思えます。
- ・ 日本の歴史や文化を考えていく中で、町内会というのは地域の中で特別であり、参加することは基本だと思っています。公の仕事に就く者にとって、そこに参加することは必要だということを言い続けていこうと考えています。

(質問)

- ・ 捕鯨についてですが、南氷洋での捕鯨の判決を受けて、三陸沖での捕鯨が縮小されたということですが、そのことについての考えをお聞かせください。

(市長)

- ・ まずは、北太平洋（三陸沖）での調査捕鯨が継続できたということについては、安堵しています。しかし、他の地域（南氷洋）での捕鯨に対する判決が北太平洋にも影響があるのはどうかと思えます。
- ・ 釧路市では、国の商業捕鯨の再開に向けた大きな方針に協力しながら、鯨食文化を守る活動を行ってきました。給食にクジラを出す際にも、経費を補助しながら続けてきています。国は今まで取り組んできた重さや地方自治体の思いを踏まえて、今後の展開を図っていただきたいと思います。

(質問)

- ・ 韓国出張の内容と成果についてお聞かせください。

(市長)

- ・ 当初、北海道主催による I R 関係の視察に行く予定でしたが、不幸な事故の影響により北海道が視察を取りやめたことに伴い、釧路市も視察を取りやめました。
- ・ しかしながら、I R 視察が決まった後、それとは別に韓国の各航空会社の幹部の皆さんと会う約束を取り付けていたことから、1泊2日の日程で、韓国に行ってきました。
- ・ 韓国の航空会社の方に来ていただいたときに、釧路や道東の素晴らしさに感激し、

チャーター便を飛ばしたいとの話を受けていました。今回、夏場のチャーター便について、要請をしてきましたが、今のところ、7月・8月には6便のチャーター便が来る予定となっているとの話を受けました。

(質問)

- ・ 国は商業捕鯨の復活を目指していると思いますが、沖での捕鯨は商業捕鯨であるとの指摘がありながら、沿岸での捕鯨は民族特有のものであるともいえると思います。国のいう、商業捕鯨の復活としての視点ではなく、民族特有のものであるという主張をしていくことを考えているのかお聞かせください。

(市長)

- ・ 釧路が鯨食文化を守るために協議会を設立した背景には、国が調査捕鯨の基地に釧路を指定したということが大きく影響していますので、やはりスタートは国の動きだと思っています。
- ・ 今回の判決は調査捕鯨の在り方について重視していると思います。地域独自の食文化を証明するために調査捕鯨を活用するという論点もあると思います。もちろん、市としての鯨食文化を守るための活動は継続していきたいと思っています。
- ・ 沿岸捕鯨も地域によって大きく異なっています。やはり、今後も地域の、というよりは日本全体の鯨食文化を守るための取り組みを期待しています。

(質問)

- ・ クジラ肉の消費が進んでいないということについてどう思うかお聞かせください。

(市長)

- ・ 釧路で秋に食することができるものは、大変おいしいと思っていますが、全体的にみると価格の問題もあるのも確かだと思っています。

(質問)

- ・ アメリカのオバマ大統領が来日し、TPP交渉が行われましたが最終合意には至らなかったとのことです。そのことについての考えをお聞かせください。

(市長)

- ・ TPPにつきましては、国会の決議を守っていただきたいという市の考えは一貫して変わっていません。道内自治体も同じ思いであり、要請活動もしています。